

利根川沿いの平野部に 営まれた古墳

香取遺産

Vol.49



▲富田1号墳と武人埴輪



富田1号墳は、小見川北小学校の敷地内にある前方後円墳です。同校の校歌に「むかしを語る木立の塚」と歌われ、児童からは「塚山」と呼ばれて、古くから親しまれてきました。

古墳の規模は、全長39m、後円部径20m、前方部幅21mで、高さ2.5mです。明治33年（1900）に発掘調査が行われ、形象埴輪（武人・馬・犬・鹿）や円筒埴輪などが出土しました。しかし、それ以降、正式な発掘調査が行われたことはなく、埋葬施設や副葬品は、現在のところ不明です。

写真の埴輪は、明治33年出土した武人埴輪で、東京帝国大学（現在の東京大学）人類学教室に寄贈されたものです。衝角付冑をかぶり、顔面の両脇には

美豆良と呼ばれる髪形が表現されています。上半身は、胸から左肩にかけて欠損していますが、桂甲（小札と呼ばれる鉄板を綴じ合わせて作った甲）を装着していると思われまます。腰には帯を巻き、前で結んで両端を垂らしており、左腰には剣もしくは刀を差して右手を添えています。下半身は残っていませんが、おそらくは両脚は表現せず、円筒形の基台に乗っていたと考えられます。

富田1号墳をはじめ、一分目地区から富田地区にかけての微高地上には多くの古墳が営まれ、豊浦古墳群と呼ばれています。後世の開墾などで消滅した古墳もありまますが、現在、前方後円墳5基、円墳6基が確認されています。

これらのうち、出土遺物などから築造時期を知ることができなのは、前方後円墳である富田1〜3号墳と三分目大塚山古墳です。この4基の前方後円墳は、同時に築造されたものではなく、三分目大塚山古墳（5世紀中ごろ）→富田2号墳（6世紀前半）→富田3号墳（6世紀中ごろ）→富田1号墳（6世紀後半）の順で継続的に築造されたと考えられます。

市の西部を流れる大須賀川流域の古墳群では、一地域の中で首長墓の変遷をたどれることを、以前紹介しましたが、豊浦古墳群でも同様のことが言えます。

（昭和44年市指定史跡）

問い合わせ

生涯学習課 電話 1224